

学校支援実践研修会

in 国見町立国見小学校

目 的：学校支援事業や放課後支援事業の先進的な取組の実施状況を見学し、成果や現状について協議するなど実践を学ぶための研修会を行い、事業への理解を深め、学校支援事業や放課後支援事業関係者の資質の向上を図る。

日 時：平成27年11月17日（火）13：30～16：10

場 所：国見町立国見小学校

支援活動参観

4年生社会科「西根堰とは何か調べよう」（国見学）

3年生総合 「民話探検隊」（国見学）

- 4年生の社会科では、ボランティアの方の説明を受けながら、江戸時代に開発された地域のかんがい用水「西根堰」についての歴史や仕組みなどについて学習しました。専門的な知識が必要とされる学習内容でしたが、具体的な資料に基づいたわかりやすい説明に耳を傾け、開発の苦労や努力などについても理解が深まったようです。
- 3年生の総合では、6つのグループに分かれ、ボランティアの方からアドバイスを受けながら、地元で伝わる民話の音読に取り組んでいました。児童一人一人がとても熱心に取り組んでいました。紙面の表記による理解だけでなく、肉声によって伝わってくる言葉のニュアンスや温かさを感じ取ることができていたようです。
- 地域の人々との交流を通して、地域のことを知ることが大切です。こうした活動が、地域への誇り、愛着につながります。国見小学校では、ボランティアの方々の支援を受けながら、充実した教育活動が展開されています。



実践報告 「国見町の学校支援地域本部事業について」

報告者 国見町地域コーディネーター 中野 由起子 氏

実践報告では、国見町地域コーディネーター中野由起子氏に「国見町の学校支援地域本部事業」について発表していただいた。

国見町では、昨年度より、学校支援地域本部事業が始まり、今年度のボランティア登録者は144名。今年度はこれまでに22回、延べ48回の支援活動が行われ、延べ205人のボランティアの方々が関わった。これまで行われた支援活動についてスライドを用いて説明が行われた。授業での学習支援だけでなく、夏季休業中の学習支援や英検3級対策講座なども行われた。また、児童クラブへの支援も行われました。



実践発表 地域ぐるみで子どもをはぐくむ「学校支援地域本部事業活動状況」

発表者 相馬市地域コーディネーター 加藤 潤一 氏

実践発表では、相馬市地域コーディネーター加藤潤一氏に相馬市の「学校支援地域本部事業活動状況」について発表していただいた。相馬市は、平成25年度に優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受けました。

ア コーディネーター体制について

25年度より対象校が市内全校となり3名体制になった。生涯学習課打合せを毎月第2水曜日に実施し、情報交換を行うと共に、連携協力を図る機会としている。

イ これまでの支援活動について

教科学習、伝統芸能、地域活動、水泳などの学習補助活動が大部分を占めており、学習内容の充実を図っている。中学校では、教科の内容が専門・高度化しており、学校側からの需要も少なく、図書整理、部活動等にとどまっている。年に2回校長等に趣旨を説明し、啓発・PRに努めているが、活用の度合いに学校によって多少隔たりが見られる。

ウ 支援活動のプロセスについて

2ヶ月単位の担任向け「支援内容調査」を各学校に配付している。

エ 広報・啓発活動について

「つなぐ」をキーワードに「支援だより」を年3回発行している。

オ 支援ボランティアへの対応について

年度末に「支援活動の記録」と題する支援の場面を納めた物に礼状を添え、お礼に換えている。





質疑応答・情報交換より



ア 質疑応答より

Q： 人材発掘に苦勞している。地域の方にできるだけ応援してもらいたいが、内容によっては難しい。昨年度実施しても今年度実施できず、ガッカリしていたボランティアの方もいた。担任によって、支援内容も変わってくる。支援内容は学校側の要請に任せているが、コーディネーターが入っていくのはどうだろうか。

A： 登録者のない要望にも応えるように努めている。登録しても機会のない場合もある。支援内容については学校に委ねるしかないと思う。

Q： 町全体での応援態勢が整っていると感じた。144名ものボランティアはどのようにして集めたのか。

A： 町の文化団体、体育団体に団体で登録いただいている。生涯学習課・公民館の協力を得たり、町役場各課にも積極的に働きかけたりしている。小学校内にコーディネーターやボランティアの居場所の設置も検討している。

Q： 中学校への支援活動を教えてほしい。

A： 音楽で雅楽や部活動等の支援を行っている。学習支援の件数は減ってきている。

イ 情報交換より

○ 30年民話を伝えている。年々民話を聞く機会が少なくなってきたように思う。方言を使わなくなり、発音も難しいが、伝えていかなければと思っている。「やらせていただく」という気持ちで続けている。

○ 民話は聴くだけでも心が豊かになる。文化の流れを知る、物を大事にする、歴史を大事にすることなどが学べる。

御意見 要望 感想（参加者アンケートから）

○ 授業参観をさせていただき「西根堰」の重要さと先人方の苦勞を感じることができて勉強になりました。民話の読み聞かせの学習では、方言の大切さ、人の前でのお話の仕方等大変参考となりよかったです。

○ 今回初めて参加させていただきよかったです。今までは勤めていたため、時間の余裕がなく参加できなかったのですが、今後機会があるときは出席させていただきます。ありがとうございました。

○ 地域の人々に上手に入ってもらい、開かれた学校づくりを実践されている様子に感心しました。それぞれの地域には多方面で優れた方々が数多くいらっしゃいます。その方々の支援は学校の児童生徒はもちろん学校の活力にもなっています。それに支援者自身の生きがいにもなっていることを強く感じます。今後ともこの実践がますます充実されることを期待しています。

○ 4年生の社会科の授業を拝見させていただきましたが、内容の高度さに驚くと共に、地域の方々も授業者として実際の授業を行っていただき、児童にとって実りのある授業になっている様子に頼もしく感じました。

○ 地域の方を子どもたちへ注ごうという活動はとても意義があると思います。

○ 参観授業、実践発表、情報交換共に内容的によかった。

○ 貴重なボランティアの声ありがとうございました。

○ 地域の人材を十分に活用して、学校教育、子どもたちの体験活動を充実させてほしいと思いました。

○ 久しぶりの授業参観とても参考になった。自分で支援できることを申請する方式はよいと思う。今までの支援テーマにとらわれず、申請できることもあればと思う。